

みんなで  
考えよう

# 同和問題

## 同和問題とは

同和地区（被差別部落）、または、同和地区出身という理由で、さまざまな差別を受けたり、基本的人権が侵害されたりしている社会問題です。

明治時代に「解放令」が出されてから 100 年以上経過しましたが、ましたが、今なお部落差別は続いています。

同和問題について、「そっとしておけば、差別は自然に消えて無くなる」という考え方が、いまだに多く残っています。

また、「人生の中で、部落出身者の人に会ったこともない」という人や、「私は部落差別をしたこともないから、同和問題について学ぶ必要はない」と思っている人もいます。

この考え方は、「自分に関係ない」という意識を生み、誤った思い込みや偏見を放置したり、差別を助長したりすることにもつながります。

差別をなくすために、同和問題とはどういうものを正しく知ることが大切です。

～ 今でもこのような同和問題が起きています ～

### 結婚に関する差別

同和地区出身の人の結婚は反対だ！



### 差別落書き・インターネットへの書き込み



### 就職に関する差別（出身地調査）

ウチでは同和地区出身の人は採用しないよ！



### 同和対策への無理解やデマなど

私は部落差別なんかしないから、同和問題は関係ないよ！

同和地区だけ優遇するな！逆差別だ！



## 「自分とは関係ない」ではなく、「自分のこと」として考えてみませんか？

本人にまったく責任がない、出身地や家柄などによる差別は、大変理不尽で許されない差別です。

「自分には関係ない」「誰か他人のこと」と無関心、無理解でいると、無自覚な差別を行ったり、差別を助長したりすることにもつながります。

### 【結婚に関する差別】

- 同和地区出身の人との結婚を、家族や親類に反対したり、結婚前に相手に無断で身元調査を行うなどの事例が、現在でも見受けられます。
- 結婚は本人同士の意思と合意で成立するものです。

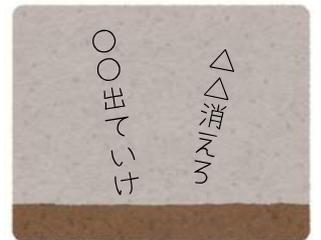


### 【就職に関する差別（出身地調査）】

- 採用選考にあたり、本人に責任のない「本籍や出身地や住所」、「家族関係や家族の職業」などを質問したり、本人に無断で調査すること（身元調査）は、就職差別につながります。
- 選考は、出身地や家族の状況ではなく、本人の仕事への適正や能力で決められるべきです。

### 【差別落書き・インターネットへの書き込み】

- パソコンやスマートフォンなどを使ったインターネット上への「差別書き込み」が深刻な問題となっています。
- インターネットの匿名性を悪用し、部落差別を助長する目的で具体的な地名や団体名、人名などを掲載、誹謗するようなことは、決して許されません。
- 近年でも、公共空間の壁面に同和地区を差別・誹謗・中傷する内容の落書きがされるなど、人々の心を深く傷つける事件が発生しています。



「私は部落差別なんかしたことはない」、「差別されている人に会ったこともない」という人や、「同和問題は自分には直接関係ない」という人は多いかもしれません。

しかし、被差別当事者の多くは、差別されることを恐れ、身近な人々にも出身地を明らかにできずに苦しんでいます。出身地を明らかに出来ない社会環境が今も残っているからです。

同和問題をよく学び、理解することで、「同和は怖い」「同和問題は、そっとしておけばそのうち無くなる」といった、誤った理解を解消し、誰もが安心して暮らせる社会を築いていきましょう。



## もっと知りたいあなたへ



市では、同和問題を含む様々な人権問題について、各地区のコミュニティセンターやインターネット上で動画配信により研修会や講座などを実施しています。市広報紙、市ホームページなどに開催情報を掲載しますので、ぜひご参加ください。